議会だより

白山市

第8号

2007
平成19年5月

「大嵐山ミズバショウ群生地」●写真提供：村本 英二さん（日本風景写真協会会員）

【目次】

平成19年3月定例会概要……2
歳出の概要……4
新組織の紹介……8
一般質問……9
常任委員会レポート……16
特別委員会活動報告……18
子どもの声・編集後記……20

3月定例会概要

平成19年第1回市議会定例会
3月6日（火）～23日（金）

3月定例会で、一般会計473億円、特別会計360億円、事業会計24億円となる対前年比47億7000万円（5・9％）増の平成19年度各会計当初予算案をすべて可決しました。

平成19年度予算総額 857億円を可決

■歳入

自主財源の基となる市税については、164億3000万円（前年比12・6％増）となりましたが、定率減税、所得譲与税の廃止によるもので、実質は横ばいです。企業の業績好調により法人市民税、固定資産税の増収が見込まれます。地方交付税は112億円と対前年比4億円（同3・4％減）の減額です。

財源の不足分は財政調整基金から10億円を取り崩して充当しました。なお、平成19年度末の市の借金（市債）見込み額は1259億円で住民一人当たり112万円です。

■歳出

厳しい財政状況の中、公債費が平成20年度にピークを迎えることから、人件費及び一般行政経費が抑制され、限られた財源の中で、教育施設の整備、子育て支援の充実、産業の振興、都市基盤の整備や白山ろくのまちづくり

一般会計

（単位：万円）

		平成19年度	前年度比	増減率(%)	内容
歳入	市税	164億311	18億3,930	12.6	市民税など私たちが直接納めるお金
	地方交付金	134億6,000	△15億9,330	△10.6	市町村の均衡を図るため国が交付するお金
	国・県支出金	58億5,419	5億8,197	11.0	国・県が使用目的を特定し交付するお金
	基金繰入金	10億1	5億6,400	129.4	定期預金の取り崩し
	市債	72億8,560	11億8,580	19.4	市が事業を行うために借り入れるお金
	諸収入等	33億4,509	3,023	0.9	諸収入・使用料・手数料など
合計		473億4,800	26億800	5.8	
歳出	人件費	73億6,924	△4,034	△0.5	職員の給料などにかかるお金
	扶助費	42億2,525	2億3,983	6.0	生活保護費・障害者支援費・医療費助成など主に福祉・医療にかかるお金
	公債費	80億4,484	2億7,885	3.6	過去の借入金の返済にかかるお金
	一般行政経費	128億4,439	4億1,855	3.3	事業実施上の事務経費や、市民利用施設の管理運営などにかかるお金
	投資的経費	89億1,673	5億5,258	6.6	市民利用施設や道路・公園などの整備にかかるお金
	積立金	10億199	10億103	——	定期預金へ預けるお金
	繰出金	49億4,556	1億5,750	3.3	一般会計から、特別会計・公営企業会計に支出するお金
合計		473億4,800	26億800	5.8	

整備が進む
松任駅前

などの大型事業に重点的な予算配分が行われました。
また、合併特例債を利用して、合併振興基金を新設し10億円を積み立てました。なお、平成19年度末の市の積立金（基金）見込み額は25億円で住民一人当たり2万円です。

■条例案 21件

新設条例案の主な内容

白山市副市長定数条例
副市長の定数を定める。

白山市建築関係手数料条例
新たな建築関係のみの手数料を取りまとめた条例。

白山市合併振興基金条例
市民の連帯の強化及び地域振興のための事業の財源。

白山市建築基準条例
建築主事を設置することに伴い必要な事項を定める。

白山市開発行為の規模及び開発区域の面積を定める条例
開発区域の面積を定める条例。権限委譲により開発許可事務が委任されるため。

事件処分案 16件
専決 1件
人事案 4件
議会議案 6件
補正予算案 5件

補正予算案の主な内容

交通安全推進隊制服等購入事業	900万円
北陸新幹線整備事業費地元負担金	369万円
法人保育園施設整備費補助金	1億1682万円
県営土地改良事業費負担金	5610万円
小学校舎等改修事業	1619万円
中学校舎等改修事業	1225万円

※慎重審議の結果すべて可決しました。

特別会計

（単位：万円）

	平成19年度	前年度比	増減率(%)
国民健康保険特別会計	103億2,735	13億9,635	15.6
老人保健特別会計	91億3,772	△3億9,042	△4.1
介護保険特別会計	59億9,026	5億6,926	10.5
簡易水道事業特別会計	6億400	2億5,627	73.7
墓地公苑特別会計	4,430	3,979	881.7
観光事業特別会計	18億3,554	9億2,628	101.9
温泉事業特別会計	7,006	△800	△10.2
下水道事業特別会計	78億7,649	△3億2,010	△3.9
宅地造成事業特別会計	2,486	198	8.7
工業団地造成事業特別会計	6,900	6,900	——
湊財産区特別会計	1,529	233	17.9
特別会計合計	359億9,487	25億4,274	7.6
水道事業会計	23億4,917	△3億6,360	△13.4
工業用水道事業会計	3,653	△1,372	△27.3
事業会計合計	23億8,570	△3億7,732	△13.7

（△前年度より減）

緊縮予算の中で、重点的な配分

自然環境との共生のために

観光の活性化・環境保全・循環型社会の形成

豊かな自然に恵まれ、伝統文化が息づく観光施策として、2月13日に観光戦略会議より、5年間を見通した答申がありました。その中には観光交流プラン「健康エコリゾート　白山湯治」がテーマに打ち出され、温泉を活かした心身の癒し、自然を活かした「雪だるままつり」や「手取峡谷川下り事業」などが挙げられ、今年度事業にも特色ある観光イベントに4922万円が盛り込まれています。今年度中にこの答申を踏まえて観光マスタープランが策定されます。

新年度予算には吉野谷地区の「吉野工芸の里」や「花ゆうゆう」を、白山ろくの観光拠点の一つとして施設の改修や利用者の増加を図るため、「みちの国ルネッサンス事業」と銘打ち、再整備計画事業を計画する検討委員会の立ち上げに200万円が計上されました。また、9月には一里野高原を会場に、「電動オフロードカー世界選手権」が8日間にわたり開催され、世界30か国から150名余りのラジコン愛好家が参加することになっており、500万円が計上されました。

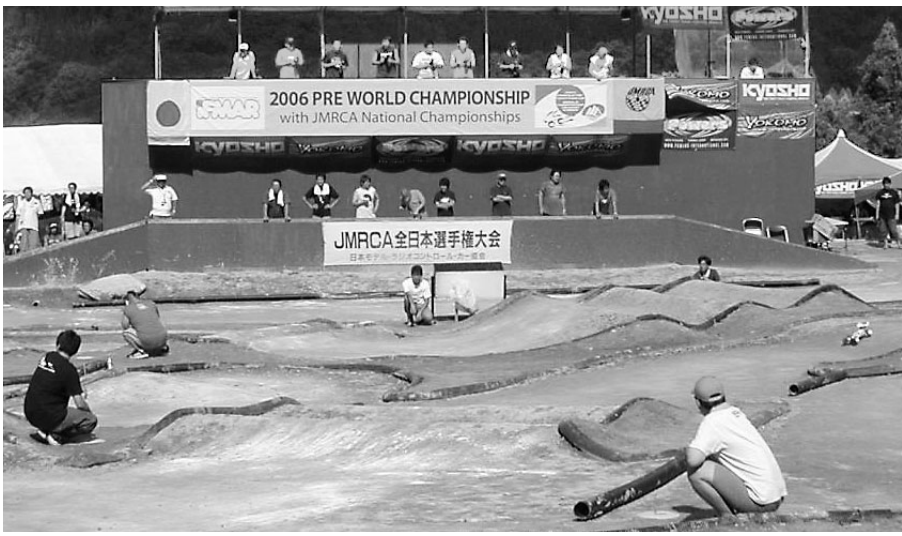
なお、スキー場再生については「スキー場対策検討委員会」から5つのスキー場に対して、それぞれの特色に応じた管理運営方針について答申がなされており、議会でも「スキー場対策特別委員会」で議論を重ね、市長も6月定例会までに具体的な方策を取りまとめることとしています。

白山湯治に期待（大門温泉センター）

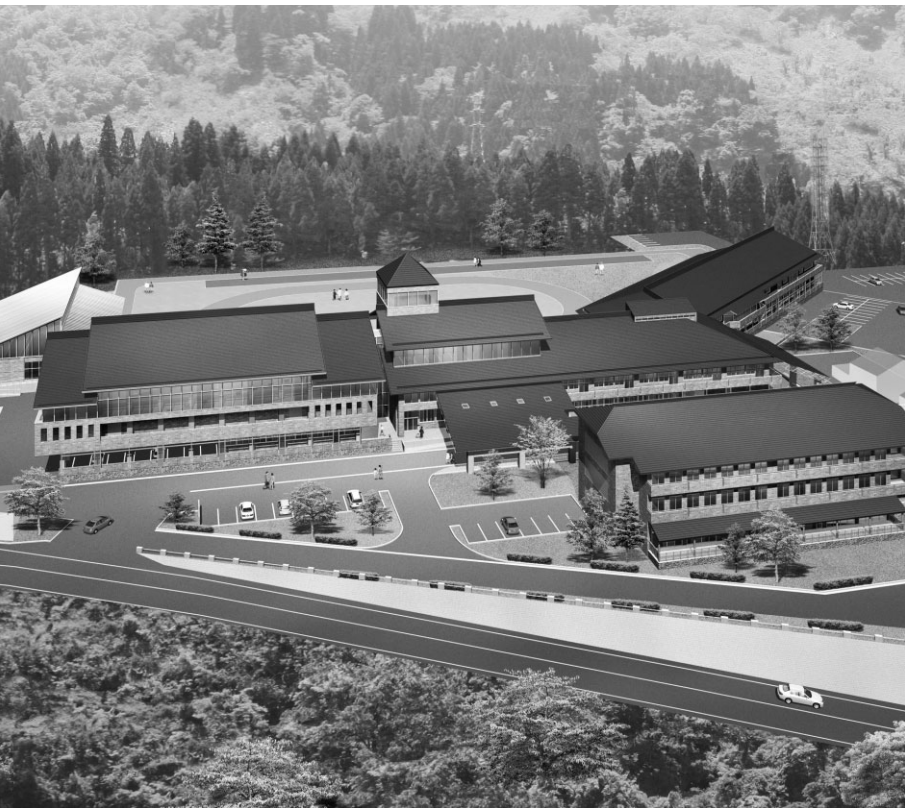
手取峡谷川下り

■主な事業

- 林道整備　1億6181万円
- 有害鳥獣対策　540万円
- 高山植物栽培試験　1349万円
- 各観光関係施設管理　6億3393万円
  （温泉、スキー場宿泊施設等29施設の指定管理料）
- 観光特別会計への繰出金（スキー場等の運営）　6億1249万円
- 温泉事業特別会計への繰出金　2298万円
- リサイクルのまちづくり　2611万円



昨年実施されたラジオコントロールカー全日本選手権大会



白山ろく統合小中学校
完成予想図

感性あふれる人を育むために

教育・文化・スポーツ・市民参加・交流

平成20年4月開校をめざす、統合小中学校の事業費に9億5778万円が計上され、美川小学校改築に測量調査、基本・実施設計として5621万円を、朝日小学校、松南小学校についても、建設基本構想検討委員会が立ち上げられます。また、白山市が推進している少人数教育は引き続き実施され、3719万円が、新規事業として障害のある子ども達の特別支援として小・中学校に10名の教育支援員を配置し、1518万円が計上されました。

市内の歴史的な遺産の掘り起こしや、国の文化財や史跡等の指定に向け調査する一方、世界遺産登録推進に1901万円が計上されました。また、スポーツ振興に関しては、来年2月に白峰温泉スキー場で全国中学校スキー大会が開催されることから、選手強化や施設整備等に2000万円が、合併3周年を記念して白山市のシンボルとなる市の花、市の木を制定するための事業に150万円が計上されました。

昨年実施された中部日本スキー大会（クロスカントリー競技）

■主な事業

- 千代野小学校、広陽小学校大規模改造地震補強　5億8100万円
- 公民館活動管理運営（28館）　2億9621万円
- 図書館活動管理運営（8館、蔵書43万冊）　1億6101万円
- 子ども相談室設置　78万円
- 都市交流（親善友好都市への派遣・受け入れ）　2005万円

今年のペンリス市文化交流訪問団との交流風景

健やかに暮らせるまちづくり

保健、福祉、医療・救急

4カ月児健診の栄養指導

生活習慣病の予防や健康づくりを実践し、巡回診療事業（尾口地域、白峰地域）362万円や予防接種事業として1億4万円が計上されました。また公立松任・石川中央病院でのPET検診に対する助成を本年度も継続するほか、母子の歯科保健対策として、妊婦歯科健診や1歳6カ月児健診での個別保健指導等に4385万円が計上されました。また緊急医療対策として、自動体外式除細動器を市内全中学校と4つの拠点体育施設に配置するほか、貸出し用として健康センター松任に2台配置されます。

児童福祉の充実として、通院費に対し、平成19年度から入院費と同様に小学校卒業まで助成することとなり、対象年齢が拡大されます。また、放課後児童クラブ「いしかわつくしんぼクラブ」建設事業779万円及び「千代野クラブ」整備事業に1750万円が計上され、多様な子育て支援対策が積極的に実施されます。

広陽小学校内に設置されたあおぞらクラブ

■主な事業

- 市民健診事業　1億6317万円
- かわちふるさと館屋上防水補修費　260万円
- 生活保護費　3億6714万円
- くろゆり荘改修事業　600万円
- 高齢者福祉サービス事業　7354万円
- 福祉タクシー利用助成事業　780万円
- 自立支援給付、地域生活支援事業　10億1314万円
- 児童手当支給事業　9億4598万円
- 子育て支援医療給付事業　1億9061万円
- 笠間保育園外壁改修事業　1268万円
- 蝶屋保育園防音事業　5117万円

安心で快適な生活ができるまちづくり

防災、地域安全活動、地域産業

白山石川広域事務組合の負担金として、12億6381万円が計上され、その中には、新消防本部等移転新築事業負担金が含まれています。（平成19年度用地取得、基本設計、平成20年度建設に着手）

また、非常備消防事業1億6709万円が計上されましたが、その中にはポンプ車など消防車両の計画的な更新を行うほか、吉野谷地域において分団の拠点施設整備も、盛り込まれました。

白峰温泉総湯完成予想図

松任駅南土地区画整理事業については、駅南広場の平成19年度竣工をめざし、19億686万円を計上し、駅周辺の活力と賑わいが創出されるよう整備が進められています。

景気回復による企業の活発な設備投資に対応するため、旭工業団地西部地区において新工業団地の整備事業費として6900万円、白峰地区において地域の特徴的な街並みを活かした市街地再整備事業として2億4740万円が計上され、平成19年度に総湯と交流センターの建設に着手されます。

また、4月からコミュニティバス「めぐーる」の運行に9539万円が計上されました。

現在の消防本部庁舎

コミュニティバス「めぐーる」運行開始式

■主な事業

- 除雪対策事業　2億7766万円
- 倉部川改修事業　1億1214万円
- 市営住宅建設事業（相木住宅、仮称和波住宅基本、実施設計）　2億166万円
- 松任駅南土地区画整理事業　19億686万円
- 市道整備事業　12億9774万円

路線名　あさひ荘苑福増線、末松徳光線他10路線

消融雪施設整備　蝶屋小学校線、曽谷行町中ノ郷線他3路線

流雪溝　下折区、上野1号、別宮下出合線

【意見書】

・地域経済の活性化と若年者の安定した雇用の拡大を求める意見書

中小企業支援策などを充実強化し、正規雇用の拡大に向けた対策の強化を求める。

・安心して医療を受けられる体制の堅持を求める意見書

高齢者が安心して受けられる医療体制を堅持されるよう求める。

・国会議員の定数削減に関する意見書

国の行政改革・財政再建をより一層推進するため、国会議員の定数の削減を求める。

・「がん対策推進基本計画」の早期決定を求める意見書

「がん対策推進基本計画」を早期に決定し、実効性のある対策を実現されるよう求める。

【申入書】

・北陸電力の志賀原発1号機の臨界事故に関する申入書

3月29日、北陸電力株式会社に対し、原因の徹底究明と再発防止策を求める申し入れをした。

新議長・副議長を選出する

村山一美議長、杉本典昭副議長から辞表が出され、議長、副議長の選挙が行われ、議長に北村登議員、副議長に岡本克行議員が選出されました。また、各常任委員会・議会運営委員会の委員を改選し、特別委員会を新設しました。

議長　北村　登

（略歴）白山市議会決算審査特別委員会委員長、鳥越村議会副議長、鳥越村議3期
釜清水町　58歳

副議長　岡本　克行

（略歴）白山石川広域事務組合議会議長、松任市議会副議長
松任市議2期
横江町　56歳

常任委員会・議会運営委員会・特別委員会の組織

総務企画常任委員会

林　繁
村本一則
古河尚訓
大本久男
岡本克行
石田正昭
◎吉田郁夫
○村下眞次
水上俊明

文教福祉常任委員会

藤田政樹
北村　登
北川謙一
岡田俊吾
小川義昭
西川寿夫
◎本屋彌壽夫
○宮中郁恵
村山一美

生活経済常任委員会

宮岸美苗
清水芳文
寺越和洋
安田竹司
中西恵造
○南　清人
◎前多喜良
徳田　巖

建設企業常任委員会

小島文治
笹木　進
河原秀昭
杉本典昭
撫子順一
◎北山　進
○北嶋章光
竹田伸弘

◎委員長　○副委員長

議会運営委員会

◎岡田俊吾
○笹木進
古河尚訓
村本一則
撫子順一
石田正昭
北山進
中西恵造
水上俊明

財政問題対策特別委員会

◎中西恵造
○小川義昭
撫子順一
竹田伸弘
北山進
笹木進
前多喜良
岡田俊吾

産業振興対策特別委員会

◎河原秀昭
○村下眞次
本屋彌壽夫
宮岸美苗
大本久男
北川謙一
村山一美
徳田巖
水上俊明

環境対策特別委員会

◎杉本典昭
○宮中郁恵
南　清人
岡本克行
小島文治
寺越和洋
吉田郁夫
清水芳文
藤田政樹

青少年育成対策特別委員会

◎西川寿夫
○北嶋章光
古河尚訓
安田竹司
村本一則
石田正昭
北村登
林　繁

竹田 伸弘

Q 市民にわかる独自の財政指数を設定し公表せよ

A 財政状況をわかりやすくお知らせする

質問 今後財政は厳しい状況になる。独自で財政レベル指数を作成し公表すべきだ。

例えば実質公債比率18％以下をレベル1（起債に国の許可が必要なく協議で済む）、実質公債比率18％以上から22％をレベル2（起債に国の許可が必要）、実質公債比率23％から24％をレベル3（起債が多く注意が必要）、実質公債比率25％をレベル4（新たな起債を起こせない）、実質公債比率25％以上をレベル5（破たんの危険あり）、他にも、経常収支比率・自主財源比率・起債制限比率等も考慮し、市民の皆さんが一目でわかるような独自の指数を設定し公表せよ。

市長 北海道夕張市の破たん事例から「地方財政健全化法案」が国会へ提出されることになっている。提案の指標を利用し、市民へ財政状況をわかりやすくお知らせする。

質問 公立松任石川中央病院がガン拠点病院に指定されなかったことは残念だが、PETをはじめ県内トップレベルの検査機能を備えた病院でもあり、多くの方が健康診断に利用されている。

急性心筋梗塞の治療では、北陸3県や大学病院から患者が送られたり、ライブ放映で全国の大学病院へ紹介されることも予定されるほど、全国から注目を浴びている病院でもある。死因の第1位は「ガン」で、白山市では年間約300人の方が亡くなっている。引き続きガン治療充実に努力せよ。

市長 PETなどの独自の検査機能を活用し、化学療法・緩和ケアの強化、放射線治療病院との連携、放射性アイソトープを用いた疼痛緩和治療をはじめ、ガン看護における認定看護師や専門看護師の育成など、地域全体の診療レベルの向上に努める。

質問 最近公営施設の駐車場で、車上の盗難事故が起きている。各施設の駐車場を中心に監視カメラ等を設置し、防犯対策を強化せよ。

総務部長 監視カメラ・照明灯の設置の検討や巡回等強化していく。

前多 喜良

Q 鶴来地区に温泉開発を強く求める

A 開発にむけて前向きに取り組む

質問 市民一人一人が、自らの健康増進に積極的に取り組む町づくりをめざしている。地域バランスを考え、温泉施設がない鶴来地区の均衡ある発展が保たれ、また市民が心身共に癒され、健やかに暮らすことが出来るよう、温泉施設の建設を強く求める。

市長 中期財政計画を見直す中で、24年度でも合併特例債を使用できることから、財政等の動向を見ながら検討する。鶴来地区の市民の気持ちは十分に理解をしている。私は常に検討した結果は必ず実現していることが多い。

合併特例債の使用状況を示せ

質問 合併特例債は旧市町村の数や人口で決定され、市民が安全で安心して暮らせる、均衡ある町づくりに利用される。平成17、18年と19年度予算も含めた事業費の総額、及び各地区に充当された事業費の額を示せ。

また、利用可能な495億2000万円の内の執行予定額と今後の償還計画を問う。

毎年46億円程度の発行予定

市長 合併特例債は10年間で438億円、過疎、辺地債の25億円を合わせた463億円を発行額としている。19年度予算も含めた発行予定額は、過疎、辺地債20億円と合わせて139億円となっている。

各地区においては、松任地区77億円、美川地区8億円、鶴来地区12億円、白山ろく地域は11億円と過疎、辺地債の20億円の計31億円、そして共通事項11億円の合計139億円となっている。また、3年据え置き20年の償還計画とし、財政の健全化を第一に考え、計画的で無理のない償還を心がける。

市民憩いの温泉施設

宮中 郁恵

Q 視覚障害者のためにSPコードを導入せよ

A 「読み上げ装置」の助成制度を周知する

質問 市はボランティアによる点字や音読テープでサポートしているが、市発行の印刷物や薬の処方せん等にSPコードを添付し、公共施設の窓口に「活字文書読み上げ装置」を設置せよ。

健康福祉部長 SPコードの添付は難しい。しかし、「活字文書読み上げ装置」は、1割の自己負担で購入できる。今後も制度の周知を図りたい。

※SPコードとは、文字情報を切手大の記号に変換したものであり、専用の「活字文書読み上げ装置」をあてることにより音声化できる。

「放課後子ども教室」の開設に向け、運営委員会を創設せよ

質問 すべての子どもを対象とする「放課後子ども教室」と親が共働きの10歳未満の子どもを対象にした「放課後児童クラブ」を連携した「放課後子どもプラン」の推進を図る運営委員会を創設し、20年度には、市内全小学校区に開設できるよう事業計画の策定を図れ。

市長 「放課後子ども教室」開設の必要性を十分検討し、慎重に進める。

運営委員会を設ける

妊産婦無料健診を拡大せよ

質問 出産までの妊婦健診14回のうち、2回は無料である。新年度より国は5回を無料との意向だが、市の対応を問う。

市長 県下同一の実施体制で調整している。

他市町と連携し対応する

マタニティマークにより妊産婦へ配慮せよ

質問 妊産婦に優しい環境づくりとして、妊娠初期は見た目では妊婦だとわかりにくく、満員電車で押される、近くでたばこを吸われる等、苦情がある。マタニティマークの入ったグッズの携帯、ポスターの掲示等で配慮を図れ。

健康福祉部長 ステッカーの配布や広報啓発を検討する。

マタニティマーク

笹木 進

Q スキー場問題に対する住民の不安にどう答えるのか

A 住民に不安を感じさせないよう十分な対策を講ずる

スキー場問題について

質問 35年前にスキー場がオープンしてから、冬場の山村の暗いイメージが、スキー場によって変わってきた。今日までスキー場は地域において、振興や観光面に大変大きな役割を果たしてきた。これまでの市長の発言内容や、新聞、テレビ等の報道を聞き地域住民は、将来に大きな不安を募らせている。こうした住民の声に対し、市長はどう答えるのか。

市長 地元と行政が一緒になって、スキー場再整備について検討し、決して住民の皆さんに不安をかけたり、いろんな心配をかけることのないような形の中で整備を進めていきたい。

露天風呂から白山が見える「白山天望の湯」

白峰温泉、河内千丈温泉の源泉について

質問 白山ろくの温泉のよさをより多くの人に知ってもらうためにも白峰温泉、河内千丈温泉を新たにボーリングすることを提言する。

観光推進部長 白峰1号源泉については、適切な維持管理のもと、安定供給に努める。河内千丈温泉については、将来的な安定供給を確保するため、財政状況を勘案しながら、段階的に源泉やボーリングの調査研究を進めたい。

つるつるな温泉「御前荘」

小川 義昭

Q 統合小中学校の寄宿舎を有効に利活用せよ

A 「統合準備委員会」を設置し検討中である

統合小中学校寄宿舎

質問 寄宿舎を建設し、有効に利活用せよ。

市長 40人程度が宿泊できる寄宿舎を建設し、冬期間、通学に支障を来す児童・生徒を受け入れる。また、市内全域の児童生徒も一定期間自然の中で宿泊し、共同生活を送ることで、協調性を育み、思いやる心や自立心などが培われるような施設として運用したい。また、「広域通学モデル校」としても検討したい。

世界文化遺産登録

質問 今後、どのような取り組みを行うのか。

市長 3県3市による「白山に係る世界遺産連絡会議」の設置。また、庁内に「歴史遺産調査室」を新設し、地域住民・関係機関等とも緊密に連携し、継続審議となった課題の改善に取り組む。一方で「白山文化フォーラム」等のイベントを開催し市民の関心を高めるよう幅広く積極的に啓蒙活動を推進していく。

公会計制度改革

質問 市民に分かりやすい会計制度導入に向けての取り組み状況を示せ。

収入役 庁内に「新たな公会計制度実務研究会」を設置し、市全体の連結バランスシートや資金収支計算書などの財務諸表の作成に取り組み、市民に分かりやすい財務情報の公表に努める。まず、下水道事業特別会計において、平成22年をめどに、発生主義に基づく企業会計に移行する。

自治基本条例

質問 市民「参画・協働」による条例案づくりの取り組み状況を示せ。

企画財政部長 インターネットや広報などで、その旨を市民に周知し、広く意見を募集する。一方でNPO団体やボランティアグループ、市民団体の中に積極的に出かけ、広く市民の意見を聴取し、条例案を策定していきたい。

学習成果を上げている小松市立松東中学校の寄宿舎「睦習館」

古河 尚訓

Q 子どもの相談窓口一本化というがイメージできない

A 子育て支援、教育センターの窓口をすべて集約する

子どもの相談窓口

質問 「子どもの権利条例」の具体的施策として「子ども相談室」が設置されるが、そのイメージが見えない。真に一本化できるのか、どのような権能を持った人を配置するのか。

教育長職務代理（以下職務代理） 現在、松任文化会館1階に開設準備をしている。内部で一本化の検討を行った結果、子育て支援課及び教育センターの相談窓口をすべて集約することとした。ここには室長のほか、家庭児童相談員や教育センター指導員等を配置し、速やかな対応に努めたい。

給食費未納への対応

質問 経済的に困難な家庭に就学援助制度がある。これは国の交付税措置のため、自治体で対応の違いがある。白山市としては、今以上の支援ができないのか。徴収は学校に任されているが、子どもとの信頼関係を築く上でも問題があり、行政で担えないのか。

市長 今年度は総児童生徒数の8・24%、総額640万円を支給している。これ以上の援助は財政事情から難しい。徴収業務は従来学校で行っていることを継続しながら、学校と連携し方法を検討する。

特別支援員の配置

質問 4月より特別支援教育が始まる。文科省は全国の小中学校へ3万人の支援員を配置する事を決め、白山市も1500万円、10名の支援員の配置を予算化した。実際にどのように運用されるか質したい。

職務代理 通常学級に在籍する「軽度発達障害」の子ども達だけでなく、特別支援教室の支援も行う。市としては実態に合わせた運用を図り、1年間を通して子ども達と関われるような支援を学校ごとに行い、職務は授業を行う教師の補助として介助支援を行う。

市内小中学生による「子ども会議」で権利条例の概要版を検討

宮岸 美苗

Q 学童保育の高学年への補助の継続を

A 国・県の方針に沿った実施要綱で弾力的に行っている

学童保育

質問 高学年を補助対象としない方針は、4年生以上の受け入れを示している厚生労働省の方針に沿わない。放課後の安心・安全な環境という点や、異年齢集団での「学び・育ち」が評価されている。学童保育の役割を評価するなら、補助金廃止はあり得ない。

市長 対象児童は10歳未満で、健全育成上指導を要する児童も加えることができるとされており、国・県の方針に沿った事業実施要綱に基づき、弾力的に行ってきた。

質問 利用しやすい料金への統一化のためにも、保育時間6時間で算定した人件費に引き上げるなどの、予算増額が必要ではないか。

市長 運営経費の2分の1を目安に支援している。人件費は、非常勤保育士の単価を参考にしている。

市場化テスト

質問 行政の事業を、入札で民間に委託する「市場化テスト」は導入すべきでない。

市長 サービスの質的向上、行政の効率化につながるものだが、個人情報の保護、公共サービスの質的向上の評価から問題もあり、慎重に取り組む。

時間外勤務

質問 幼稚園・保育所での時間外勤務が恒常化しているのは、その仕事量に見合う増員が必要ではないのか。残業代がつかないとも聞く。

参事兼職員課長 不測の事態の発生や行事の準備等、時間外勤務が必要不可欠な場合があり、時間外勤務手当の措置をしているが、短時間の時間外勤務や、自己啓発の研究活動などでは申告しない時があると認識している。延長保育をしている所では、時差出勤するなど時間外勤務の縮減に努めている。管理職には周知をはかっている。

質問 現場の職員に実態を聞くべきだ。

参事兼職員課長 保育現場と連絡をとりながら、実態把握に努め、改善を図っていく。

新工業団地と雇用

質問 新工業団地の経済波及効果を聞く。誘致企業には、地元の正規雇用の拡大を求めよ。

市長 経済波及効果は、固定資産税、法人市民税で2・5～3億円、雇用は約600人を見込んでいる。地元の正規社員の雇用を強く要請する。

小島 文治

Q 中心市街地活性化基本計画に再度取り組め

A 中心的機能の集積を生かした都市づくりを進める

質問 にぎわいあるまちづくりの推進に国の財政支援を受け、魅力ある商店街へと活性化すべきだが、市の取り組みを問う。

市長 中心市街地活性化基本計画の策定については、平成12年から13年にわたって旧松任市や旧美川町において策定されたが、大規模集客施設等の郊外立地や郊外居住の進展に伴い、中心市街地の集客力の低下を見ている現状である。

これに対し、国は「まちづくり三法」の改正と活性化に対する支援制度の拡充を図ったところであり、本市においても、行政、商業、医療、福祉などの中心的な機能の集積を生かし、快適で活力ある市街地整備計画として、策定に向けて関係団体と協議を進めたい。

質問 白山市環境基本計画について市及び事業者の取り組みと、今後の事業計画を問う。

助役 計画の実効性を高めるため、環境サポーターの会などと意見交換を行っており、今後は事業者も含め新たな組織づくりに向けて、作業を進めていきたい。

行政としての取り組みについては、昨年7月からISO14001の適用範囲を全支所に拡大し、電気使用料においては、今年度上半期における前年同期比で13・9%節減されており、順次公共施設への適用拡大を図る。

また、地球環境の保全の重要性の認識を図るため、夏休みに炭焼き体験、森の体験とヒノキ細工などの環境講座を開催し、次代を担う子どもたちが環境に対する理解を深めることができるよう取り組む。

新年度の地球温暖化防止事業への取り組みについては、家族が集まって同じ食卓を囲み、省エネをめざす鍋をキーワードに、白山市版の市民エコライフ大作戦を計画している。また、秋にはパーク獅子吼において、音響設備を使用しない「電気のない音楽会」の開催も予定しており、地球温暖化防止に対する理解を深める計画である。

整備された大町商店街通り

岡本 克行

Q 地元業者の受注減が心配

A 公共施設の早期修繕に取り組む

質問 入札制度改正の中に地元業者の社会的貢献度の評価を十分配慮する必要があるのではないか。

助役 制限つき一般競争入札の参加要件については、地元業者の育成を図る観点からも、地域性を十分に考慮することとし、市内に本社を有する業者を中心に選定する方法などを考えていく。

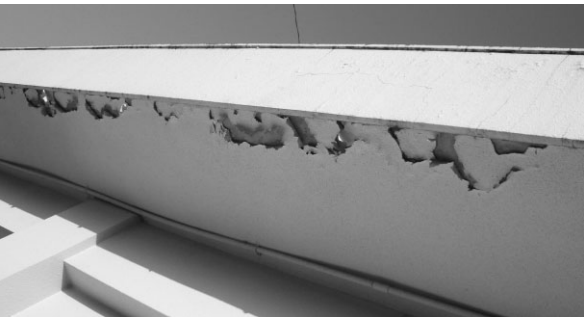
質問 市単独公共工事の早期発注を問う。

助役 市単独事業を中心に端境期となる4月から7月における早期発注に努め、年間を通した発注業務の平準化を図る。

質問 市内各公共施設の修繕の必要箇所98カ所に対して早期に取り組め。

助役 公共施設の修繕については、適切な管理に努めているが、経年とともに建物の内外が劣化し、修繕を要する箇所が生じてくる。そのため、工事規模の大小にかかわらず緊急性、必要性などを考慮し、計画的に修繕していきたい。

公民館外部階段鉄部の腐食



保育所の軒裏塗装はがれ

北山 進

Q 森林環境税を活用した事業計画を示せ

A いしかわ森林環境税を財源としたソフト事業を実施する

質問 合併後、2年が経過した。角市長の任期も、中間を過ぎたが、振り返って自分自身の採点をつけるとしたら何点か。

また、残された2年の重点施策は何か。

市長 市政運営の評価は市民の皆さんが評価すると思うが、あえて評価すれば70点か80点だと思う。

残り2年の重点施策は、豊かな自然と共生する自立と循環の都市（まち）をめざし具体化に向け積極的に取り組んでいく。

質問 白山ろくでは、過疎化が進み集落の維持管理が難しくなってきている。今後、この地域にどんな施策を講じるのか。

市長 引き続き地域が自立できる支援策を行っていきたい。活性化策研究に法政大学と協定を結び取り組みたい。

質問 森林環境税が今年から導入される。それを活用した事業を計画しているのか。

産業部長 いしかわ森林環境税を財源とした市民、県民の参加によるソフト事業を計画している。

質問 一般競争入札の導入が4月から計画されている。建設業者は、災害や水害時、市民の安全を守るため

総務部長 地元業者の育成を図る上からも、地域性を考慮した要件を設け、公正な競争を促す。

質問 19年度の県外でのイベントは、観光物産協会の協力と理解を得て行うべきではないか。

観光推進部長 観光物産協会との連携はもとより、白山商工会観光部会などとも連携をとり進めていきたい。

第27回大新宿区まつりふれあいフェスタ2006

清水 芳文

Q AEDのさらなる設置拡大と講習会の拡充を

A 市役所・支所に設置を検討 関係職員全員を対象に実施

観光施策

質問 ①全国一斉に白山市をPRできる白山市の観光大使の任命を提案する。②キャニオンロードや白山スーパー林道などで観光サイクリング事業を展開することを提案する。③翠星高校の生徒に白山市の特産品を使った新商品の開発を依頼してはどうか。

市長 ①適任者がいれば分野にとらわれず検討したい。②白山路サイクルフェスタを開催する。ツールド白山は検討したい。白山スーパー林道は急勾配、急カーブが多く、開催は困難である。

産業部長 ③翠星高校と協議を進めたい。

世界文化遺産

質問 ①歴史遺産調査室設置後の取り組みを示せ。②文化財防火デーの取り組みを示せ。③文化的景観の指定に向けた取り組みを示せ。

市長 ①住民への説明会の実施、民家の建築年代の調査、禅定道調査、文献調査のほか、白山文化フォーラムの開催、提案書の内容を再検討する。②防火訓練の実施、指定文化財の管理者に対する広報活動を行っていく。③文化的景観は市のホームページに掲載した。伝統的建造物群については、住民の理解を得ながら指定範囲を検討し、国の選定に向け努力したい。

文化財防火デーの訓練風景

AEDの設置

質問 ①市役所全職員、AEDを設置する施設の関係者、体育施設利用者、全中学生にも救命講習を実施せよ。②市内の小学校、公民館、温泉施設に設置拡大せよ。③貸し出し用AEDを市役所、支所に設置せよ。

健康福祉部長 ①関係職員全員を対象に実施する。②市の関係施設を中心に調整したい。③検討したい。

村本 一則

Q 19年度予算 財政破たんは大丈夫か

A 厳しいが健全財政で行える見通し

19年度財政調整基金(貯金)が少なくなっているが

質問 19年度予算、基金が7億4400万円となり繰上げ充用金が返済できない状態となることが予想される。今後、大胆な経費の節減を行い大型事業を先延ばしての対応が必要でないか。

18年度決算より2、3億円基金積み立ての見通し

市長 18年度決算にて、2、3億円基金の積み立てができる見込み。2、3年間が厳しい財政運営の見通しであり、大型事業の期間の見直しや経費の節減にて乗り切っていく。自主財源も伸びてきている中、今後、新幹線の車輌基地や工業団地造成などがあり将来は明るい見通しである。

災害時における罹災証明の発行体制は

質問 大規模な地震、水害などで被災した場合、被災家屋の復興に対して、損害保険の申請、税の減免、学費の免除、資金借入申請や義援金配布の割合などの割り振りの元になる罹災証明書の発行が重要。白山市では大規模災害後の罹災証明書発行は遅延することなく発行できる体制か。

関係機関の協力で対応する

市民生活部長 地震など大規模災害時、災害復興時に被災家屋の調査が必要。専門的な知識が必要であり、他市町村や地元建築士など関係機関の協力の上、被災者の立場に立っての交付に努める。

災害時の罹災証明は大丈夫か

その他の質問

質問 17年度決算認定の指摘内容は、19年度予算編成に反映されたか。

市長 指摘事項についてはおおむね反映されている。新たな財源確保など積極的な行財政改革を進めていく。

質問 土地開発公社は健全に運営していけるのか。

助役 損失を極力抑え、準備金が不足することのないよう収支の均衡を図っていく。

岡田 俊吾

Q 市民に理解できるような広報活動を推進せよ

A 市民の目線に立った広報活動を推進していく

質問 白山市では公債費（借金）が平成20年度にピークを迎え、財政もここ数年一番苦しいが、合併をしたことによって合併特例債を予算に取り込むことができたが、特例債も3割は借金だ。

市民に対して、財政の現状、合併して良かったこと、悪かったことなどを、広報紙だけでは市民に理解してもらえない。

地域懇談会で市民と市長の意見交流も意義があると思うが、もう少し市民に見やすく、理解できる広報紙を作れないか。

市長 国の三位一体の改革で地方交付税を始め、それぞれの補助金が削減され、いずれの市町村も財政事情の厳しい中で予算編成を行っている。

また、市の計画や施策について、広く市民の理解と協力を得るためにも、白峰から美川地域まで、10回地域懇談会を開催し、合併の経緯や白山市の現状と将来展望、各地の課題について話し合ってきた。

市民の目線に立った広報活動や、月2回発行の広報紙の充実を図り、懇談会、提案ハガキ、提案メールなどの広報活動を通じて市民の声に傾聴し、市政の理解が得られるよう、広報活動に推進していきたい。

質問 合併して2年たつがいまだにマスタープランができていない。今後白山市のまちづくりをどのように進めていくのか。

市長 実効性のあるマスタープランを議会とともに作り上げたい。

質問 第三セクター及び、市の関連法人の、今後の在り方や運営について、改善、改革すべきだが、市の考えを問う。

助役 本市が出資している法人は17法人あるが、設立当時の経緯があり、再建が可能か一度検討し、経営状況が悪い法人については指導強化していく。

質問 強制力のない環境美化条例を市民の生活環境を守る上からも、市として管理、取り締まりができないか。

市長 環境基本条例の徹底は市民の生活環境を守るため随時現地確認を行い、管理者に対し指導、勧告、命令により指導する。

市民への啓発については、広報や研修会の開催等により、周知に努める。

水上 俊明

Q 交付税が減っても市の財政は大丈夫なのか

A 国の言うことが不安であり自己財源を伸ばしていく

質問 企業誘致によって税収を増やしていかなければならないのに、中期財政計画では税収見込みの全体額すら見えないようになっている。それがわかるように19年度分から改善すべきだ。

また、税収の全体額はもとより、その中で企業誘致による税収額も見えるようにすべきだ。そうでなければ企業誘致の取り組み姿勢もわからず、その結果のチェックもできない。

企画財政部長 国の方針にのっとり作成しており、市税・交付税等として表現した。また、新工業団地に係る税収見込みなどは19年度以降の計画に反映させる。

質問 企業の市政への貢献度が高いからこそ、それを税収の数値で把握できるように、法人と個人の税収割合が見えるようにすべきだ。

企画財政部長 法人と個人の税収割合予測は、来年度の中期財政計画作業段階で行っていく。

質問 財政を良くしていくためには、支出に関して歳出構造の見直しを毎年行うのは当然だが、10年後のあるべき歳出構造を描かないで見直しをしても、全く意味がない。まずは、それをはっきりさせることが大事だ。

企画財政部長 本市の理想的な歳出構造を数値で表現するのは非常に困難だ。

質問 19年度から22年度までの財政計画を赤字収支で組んであるが、そういうことは厳しい財政を良くしていくためにはやってはならない。

企画財政部長 18年度は政策的な大型事業を計画に盛り込んであり、結果的に収支金額が赤字となった。

来年度計画作成においては、行財政改革を積極的に盛り込んでいきたい。

質問 スキー場を整理するために多額の資金が必要になることが予測できるが、その資金は新たな借金に依存しなければならず、そのための借金枠の確保が必要となる。その意味で、財政健全化のために当面すべきことは、基金の積立てより現在ある膨大な借金を毎年繰上償還し、新たな借金ができるように準備しなければならないのではないか。

企画財政部長 本市の集中改革プランに沿ってやっていく。

総務企画常任委員会

白峰地区中心市街地再整備事業が進められる

白峰温泉総湯 地域交流センターが新設

質問 白峰温泉総湯・地域交流センターの整備は、既存施設を残しながら新しいものを建てるのか。

答え 中心部にある現在の施設は取り壊し、まちなか広場として使う。新しい施設は手取川沿いで、手取川やスキー場が見える見晴らしの良い場所を予定している。

質問 白峰地域には、ほかに3つ市営の温泉があるが、今後はどのように考えているか。

答え 既存の施設は、そのまま残していく。

意見 公共施設の新設に当たっては、白山市全体として類似する既存の施設の統廃合を見据えながら進められたい。

外部監査制度の導入を

質問 外部監査制度の導入については、どのように考えているか。

答え 今のところ、導入の積極的な考えはない。

意見 財政が硬直化していく中で、民間感覚での経営手法が必要である。財政の一層の健全化、透明化を図るため、外部監査制度導入を検討されたい。

新設町内会の規模は

質問 今後、新たに町内会を設ける場合、何世帯を単位とした規模とするか。

答え 「白山市町の名称及び区域の整備に関する要綱」により、50世帯から200世帯程度を方針として整備していきたい。

「市の鳥」の制定は

質問 市の花、市の木の制定にあわせて、市の鳥を制定する考えはあるか。

答え 基本的には、市の花と市の木を考えており、市民のアンケート、選考委員会等の意見を踏まえて対応したい。

現在の白峰温泉総湯

文教福祉常任委員会

平成20年4月から、老人保健が後期高齢者医療に移行

高齢者福祉について

質問 ひとり暮らし高齢者の連絡体制は。

答え 民生・児童委員の活動や緊急通報装置、老人福祉連絡員で体制整備を図っている。緊急通報装置は心臓疾患のある方を初め、157件設置している。

質問 国保会計への繰出金が年々増えているが、歯止めの施策は。

答え 繰出金については、事務費や国保税軽減に係るもので、平成20年4月より75歳以上の方は後期高齢者医療制度に移行する。

質問 高齢者生きがい健康づくり事業で体育館に運動器具を置いて健康増進を図ってきたが、寝たきりにしない目標、生きがいをどう持たせるかの目標は。

答え 18年4月に包括支援センターという介護予防の拠点を設置しており、健康増進事業と連携をとって健康プランを生かしながら介護予防を推進していく。

ファミリーサポートについて

質問 ファミリーサポートセンターの詳しい活動や利用状況は。

答え 会員登録は、保育を頼みたい人39人、協力できる人74人、頼んだり頼まれたりする人17人の合計130人。2月では38件の利用があり、内容は子守り、保育所の送り迎え、児童クラブの送り迎えが主なもの。会員は30代、50代がそれぞれ3割を占めている。

PET検診について

質問 PET検診の助成について減額されているが。

答え 実績は白山市121人、川北町195人、野々市町21人が検診している。昨年は400人を見込んだが、結果として少なかった。

質問 料金が高いことが原因ではないか。実績がよくなくても昨年同様の金額を助成していくのか。

答え PET検診はがんの早期発見につながるので、ぜひ受けていただきたい。8万4000円コースが一番利用されている。昨年同額を助成していく。

学校関連について

質問 スクールカウンセラー配置事業では、どれくらいの生徒がカウンセリングを受けたか。

答え 平成17年度相談件数は142件で18年度は少し増えている。生徒指導推進協力員は予兆があるから配置するのではなく、年度の初めに配置が決まる。

生活経済常任委員会

鳥インフルエンザ 県内に感染は確認されず

有害鳥獣対策事業について

質問 白山ろく地域では、民家の近くの田や畑で農作物が鳥獣の被害に遭っており、農作業に支障が起きている。経費の増額などさらなる対策を求める。

答え 防除ネットの補助金などで対策しているが、徹底できない。北陸農政局管内で、獣害対策の調査があり、調査対象地域に指定となれば、獣害対策について国の指導が受けられるので、指定地域となるようお願いしている。さらなる周知を図る。また建築士等による検討会に、利用しやすい制度への取り組みをお願いしている。

地元産木材利用促進事業補助金について

質問 補助金制度について、市民への周知を図れ、また補助金の要件を緩和せよ。

答え 補助金については、白山市内では新築、または新築住宅を購入した場合、乾燥した地域材使用割合が70％以上で、床面積が80平方メートル以上の住宅に対し、50万円を限度として申請により交付される。市のホームページにて市民への周知を図っているが、今後、広報等でさらなる周知を図る。

地域産材を使った新築住宅

質問 地域産材の利用促進で、価格が高くても地域内循環による経済効果の拡大を図れ。

答え 白山ろく統合小中学校に、全面的に地元産スギを使用、また蕪城小学校の腰板等にも使用している。

白山市工業団地造成事業について

質問 市民の正規雇用を誘致企業に働きかけよ。

答え これまでも働きかけているが、今後もさらなる働きかけを行っていく。

建設企業常任委員会

市民の安全を図るため 市道舗装修繕に迅速に対応せよ

質問 暖冬であった今年度の除雪費を示せ。

答え 2月末現在で4100万円である。

質問 市道舗装修繕費予算、3億2367万円で市道延長886キロメートルの舗装は十分にできるのか、市民の安全のため、迅速な対応を要望する。

答え 市道の舗装の状態が悪いことは把握している。今後計画的に市道舗装を行っていく。

質問 公園管理費の内容を示せ。また、今後維持管理費が高くならないように管理方法も検討すべきである。

答え 花や芝生の管理費は単価を下げながら管理している。また、シルバー人材センターの皆さんにも協力いただきながら、経費削減に努力している。今後も経費削減を考慮していきたい。ただ、市民の皆さんが安全につつろぐ場所のため、最低限の費用は必要である。

その他

陳情第1号「下がり壁」を活用したまちづくりの推進に関する要望書について、現状等の補足説明を受けた。

除雪作業

芝刈り作業

観光対策特別委員会

地域独自の環境を生かした観光施策を推進せよ

本委員会では、白山市の観光施策について調査するため、2年間にわたって13回の委員会を開催しました。市内全域の施設の視察や、県外のスキー場及び観光施設の視察、また県外における観光物産フェアの視察を行っており、その調査結果を報告します。

まず、市内の各観光施設については、施設の利用状況を把握するため、現地視察を実施しました。

それぞれの地域に類似施設が多くあることから、それぞれの地域が持つ、独自の自然、環境を生かした観光、物産品づくりを進め、開発や販売は、各観光物産協会が中心となっていくことが必要です。

市内で行われるイベントは地域に与える経済効果も考慮して、効果の少ないものは、主催者と協議の上、規模の縮小、廃止などの検討が必要です。

県外でのイベントは、現在、東京、大阪で行われているが、今後も、引き続き継続していくことが重要であるが、適切な時期、場所を選定し、各観光物産協会を中心に、大きな宣伝効果が得られるように、予算も増やすことを提言しました。

最後に、今後の本市の観光の在り方について、白山ろく地域では、観光が過疎を防ぐための施策の一つであることから、観光に携わる企業からの意見を取り入れ、将来は民間が主導権を持って運営されるよう努力が必要です。

霊峰白山から日本海まで、さまざまな環境を持つ白山市の特性を十分生かし、平野部、山間部が一体となった観光地が誕生することを期待します。

白峰クロスカントリー競技場を視察

交通対策特別委員会

北陸新幹線の整備 コミュニティバス運行を審議

交通体系の整備は、住みよい快適な町づくりを進める上で欠くことのできないものです。本委員会では、地域活性化につながる効果的な交通施策の調査及び審議を行いました。

その概要は次のとおりです。

北陸新幹線について

本線の高架化や盛土構造による基地建設が住民の生活環境に及ぼす影響を懸念し、長野、仙台の車両センター視察では騒音、夜間照明等周辺環境の現地調査を行いました。また、関係当局に対し基地立地後の環境予測データの提示と、安全対策、環境整備への十分な配慮を要望しました。

さらに、県外視察では地元商工会の意見を聞き、地域経済への波及効果についても調査しました。本市においての車両基地による税収増、雇用創出、関連産業の進出など経済的波及効果を大いに期待します。

新幹線総合車両センターを視察(宮城県利府町)

コミュニティバスについて

利便性の向上を図るために地域特性を考慮したルート改善策やコスト削減策について審議し、この4月には、新しいデザインのコミュニティバス「めぐーる」を導入、新しいルートでの運行となりました。今後も柔軟な市民ニーズへの対応と、企業や団体からの協力や参画のもと財源確保に努めること、費用対効果の検証を行うよう執行部へ要望しました。

高齢者福祉タクシーについて

制度の存続を求めたところ、福祉面を重視し、障害者タクシーは残るが、全市的な見直しを図る旨の考えが示されました。

松任駅の橋上化構想について

駅周辺整備を推進する中で、今後の調査研究と費用負担の検討が必要との意見がありました。

防災対策特別委員会

安全で安心して生活できるまちづくりのために

当委員会では、明石市防災センター、金沢市消防本部や、白山の甚之助谷砂防施設、神戸市、淡路市、新潟県長岡市、十日町市を視察・調査し鋭意審議を重ねました。

災害発生時は、災害対策本部は本庁舎に設置されます。消防本部との連携が重要となることから、消防本部について集中審議を行いました。

緊急中間報告として、平成17年9月に「早急に消防本部を建設することが重要」との提言を行いました。現在、建設場所も含め新庁舎建設に向け検討がなされています。

本市も、風水害、雪害や地震など、さまざまな災害が想定されます。大雪による家屋倒壊現場や豪雨による土石流、スキー場での地すべりなど災害現場に出向き状況把握を行い、通行止めのダム1号線や、砂防事業、地すべり・がけ崩れ対策事業等について、今後も国・県に対し強く働きかけていく必要があります。

除雪対策も、市民生活に支障をきたさない体制を構築するよう要望したほか、危機管理体制は、日ごろの訓練が重要であり、周知の方法として携帯電話メールによる情報伝達体制を早期に確立することも提言しました。

来庁者の多い建物にＡＥＤを多く配備し、職員全員が救命技能を有する白山市となることもあわせて提言しました。

震災地の教訓として災害時には、地域の住民の協力による「地域力」が大切であることが報告されています。

災害はいつ起きるかわかりません。今後とも、市民が安全で安心して暮らせる町づくりに、より一層防災対策に取り組むことを市当局に対し要望しました。

ＡＥＤ講習会を受講

少子化対策特別委員会

少子化対策を8提言にまとめる

急速な少子化の進行に対応すべく、子どもを生み、育てる喜びを実感できる社会の実現が重要です。そのため、家庭だけでなく地域、職場、学校を初めとする社会全体で、子ども・子育て支援に取り組んでいくことが不可欠と考え、市内の保育所、放課後児童クラブ、子育て支援センターなどの現地視察を実施しました。また、東京都武蔵野市や新潟県上越市を視察し、子育て支援センターや、支援に関する各種施策の状況を調査するなど鋭意審議を重ねてきました。

審議の過程で、妊娠から育児期までの子育て世帯の経済的負担が大きいことから、更なる経済的支援が必要との意見や、男女が共に働ける子育て環境の整備や、その効果が期待できる支援策を検討し、「子育て支援のための提言」とし、次のとおりまとめました。

提言1　妊婦の健康確保を図るため、妊娠中の健康診査を5回実施する必要があるとともに、栄養消耗時に必要な歯科健診を実施する必要がある。

提言2　児童手当については、平成18年度に制度改正されたが、さらなる充実について、国県へ働きかける。

提言3　2人目を出産した親に対して一時金を上乗せして祝い金を支給することにより、2人目以降の出産を奨励する。

提言4　子育て支援医療給付について、通院・入院に係る助成対象期間を中学校3年生までに拡大する。

提言5　白山ろく地域のすこやか子育て支援手当について、白山ろく地域の児童数が特に減っていることから、平成20年度以降も継続する必要がある。

提言6　育児期の経済的負担を軽減するため、チャイルドシートのリサイクルシステムの構築を進める必要がある。

提言7　父子家庭であっても、父親の収入が減少し、生活に困窮している家庭に対して、児童扶養手当並みの支給対象化を検討する。

提言8　幼稚園、保育所の窓口を一本化した子ども課などを設置する。

以上、8提言です。

子育て支援センター「げんきっこ」を視察

子どもの声

「白山市になって」をテーマに
松任地域の中学生から、ご意見をいただきました。

いい白山市を作るために　松本明子さん（北星中学校３年生）

松任市・美川町・鶴来町・山ろく５村が合併して２年が経ちました。

「白山市」という新しい市になって思ったことは、同じ市に住んでいるのに、その市町村のいいところが何なのかわからないことです。

私は市民が増えたのだからいろんな行事をしていく中で、その市町村のいいところを紹介していけるともっといい市が作れると思います。

白山市になったからこそできることがたくさんあると私は思います。

白山市のいいところは、さらによくなるように努め、さらに白山市民のいろいろな意見を取り入れ、市民全員で白山市を作っていくことによって、市民一人一人が「白山市になってよかった」と思えるような白山市を作ってほしいです。

みんなの町白山　山村和弘さん（松任中学校３年生）

「きじ啼くや土いろいろの草となる」これは加賀平野から見える白山をバックに、一面に咲いた春の菜の花の美しさを歌った千代女の俳句です。千代女は江戸時代にこの松任で生まれ育ちました。

今、僕たちの教室からもきれいな白山が見えています。白山は季節によって様々な顔を見せ、時々勉強を忘れて見とれてしまいそうになります。今から３００年以上も前に生きた千代女も、僕たちと同じ白山を見ていたのだろうと思うと、なんだか不思議です。

そんな白山が僕たちの市の名前になり、とても嬉しく思います。だから僕は、白山市の豊かな自然と住みやすい環境を多くの人に知ってもらいたいと思います。

白山市に誇りを持ち、住民がいきいきと暮らす。千代女が生きた時代のように、人と自然が共存できる市であってほしいと願っています。

これからの白山市　荒井信太郎さん（光野中学校３年生）

８つの市町村の合併によって誕生した白山市は、手取川と白山という２つの自然があります。合併によって町や村といった垣根が消し去られた今、自然保護や災害の両方の対応が行われやすくなり、被害を最小限にする努力をするべきです。

８が１になり、一体となって「白山市」を形成するということは、ひとつの事柄にひとつの力を注ぎ込んでいったのに対し、８の力を使えるというメリットがあります。

私たち白山市民が一体となり、自然を保護し、愛し、その素晴らしさを後世に伝えるという行動が可能になりつつあります。その行動は、この市に住む私たち白山市民が行うべきだと思います。

この市の学生である私たちの若い力と行政の統率力が組み合わされば、白山市は、さらに住みやすくなります。

自然保護やボランティア活動に、私たちも協力したいと思います。

編集後記

合併して実質３年目となる３月議会。議員も１期４年で一区切りとすれば、それぞれの仕事の仕上げに入る時期とも言えます。

私たち編集委員６名は、各会派により１名ずつ１年間の任期で構成され、この議会だよりが最後の編集となります。この１年間は楽しみながら編集作業ができたように思います。どうすれば分かりやすく伝えられるか、議員の思いを的確に表現するか。また、もっとすっきりとした広報にするにはどうするかなど、市民の皆様に読んでいただける議会だよりになるよう努めてきました。

さらに、他県からも私たち編集委員会の視察を受けるようになり、高い評価を頂いた時には大きな励みになりました。

６月定例会から、編集委員会のメンバーが変わりますが、更に充実した内容で市民の皆様と議会との架け橋となり、皆様の声が我々の議会活動に活かされるよう努めてまいります。

〈編集委員一同〉

■編集委員会
委員長：古河 尚訓　副委員長：南 清人　委員：小川 義昭、河原 秀昭、藤田 政樹、西川 寿夫

発行日／平成19年5月1日　発行／白山市議会　編集／議会だより編集委員会　事務局／白山市議会事務局庶務課
〒924-8688　石川県白山市倉光二丁目１番地　TEL：076-274-9580　FAX：076-274-8510
E-mail：gikai@city.hakusan.lg.jp　ホームページ：http://www.city.hakusan.ishikawa.jp/
R100 古紙配合率100%再生紙を使用しております。　PRINTED WITH SOY INK この印刷物は大豆油インキを使用しております。